

チャレンジ！
野菜づくり

タマネギの
上手な苗作り

タマネギはあまりに早く種まきすると冬に入る前に大きく育ち過ぎ、低温に感応して「とう立ち」(花をつける茎が伸び、根や葉に栄養がいなくなる)としてしまいます。適正なまきどきは早生種9月上旬、中生種9月15日前後、晩生種9月20日ごろです。

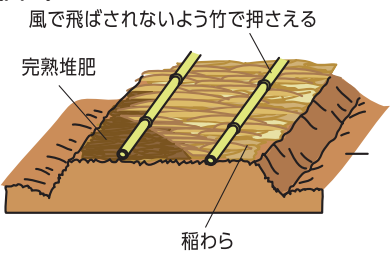
タマネギは土壌の酸性に弱い(最適pHは6.3~7.8)ので、苗床には早めに石灰を施し、20cmぐらいの深さまでよく耕しておきます。

苗床は幅80~100cm、高さ15~20cmとし、あらかじめ化成肥料を全面にまき、深さ15cmぐらいに耕し込んでおきます。

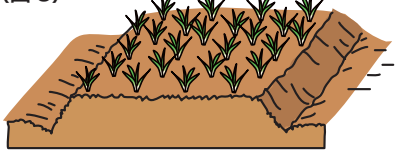
(図1)



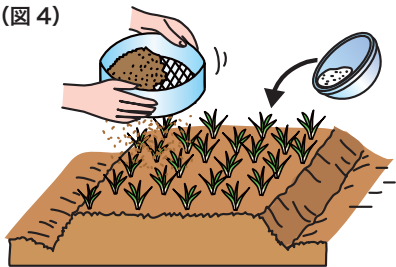
(図2)



(図3)



(図4)



約40mlを目安として種を均一にまきます。その上に草木灰を種が見えなくなる程度に掛け、さらにそれが見えなくなる程度にふるいで土を均一に掛け(図1)、板切れなどで軽く押し付け、鎮圧(ちんあつ)します。その後細かく砕いた完熟堆肥(たいひ)、またはもみ殻で土が見えなくなるくらいに覆います。そしてたっぷり灌水し、稲わらで全面を覆い(図2)、強い降雨や、強日光による乾燥を防ぎます。

通常6~7日で発芽しますから、全体に発芽し1~2cmに伸びたら、稲わらは取り除きます。乾いていたら全面にたっぷりジョウロで灌水し、そろった発芽を促します。

草丈が3~4cmに伸びた頃、苗が密集していたら、1.5cmぐらいの間隔になるよう間引きます(図3)。

間引きの後、少量の化成肥料を追肥し、ふるいで土を掛けて土入れます(図4)。

苗が7~8cmの丈になった頃、前と同様に第2回の追肥をします。この頃は秋雨が降り続くことが多く、葉の一部がぼんやりと黄化する「べと病」が発生しやすいです。苗床での発生を許すと春先になつて本畑でも多発するので、早いうちに適応薬剤に展着剤を加えて散布し、完全に防除しておきます。

11月上旬~中旬になり、苗の草丈が約20cm、太さが5~6mmぐらいになったら本畑に定植します。苗取りは、床が乾いていたら十分灌水し、根をできるだけ切らないよう、大きい株から順に、そろえて引き抜きます。こうすれば本畑で早く根付きやすくなります。

肥料・農薬のご紹介

滋賀県専用!

混合堆肥複合肥料
エコレット
288
(混合堆肥複合肥料)

法律が改正され、堆肥と普通肥料を混合造粒した肥料の販売が可能になりました。そこで誕生したのが、この「エコレット」です。

【特徴】

- 約50%が天然由来成分で低コスト
- 土づくりと肥料のダブル効果
- 肥料成分が保証されているので、通常の肥料と同様に施肥設計が可能
- 粒状なので機械散布もラクラク
- 製造時に火力乾燥しているので、雑草の種子や病原菌などが混入する心配がなく、安全・安心

【成分】※単位は%

12 (チッ素)	8 (リン酸)
8 (カリウム)	2 (苦土)
0.4 (マンガン)	0.2 (ホウ素)

※お気軽に各営業センター/営業購買課へお問い合わせください。